



はと時計9月号

松蔭中高図書館 2019年9月2日発行
library@shoin-jhs.ac.jp
担当：和田 はと時計215号

空

今月のテーマは空です。9月20日は空の日なんですよ。話題の映画『天気の子』の小説も図書館に新しく入ってきました

雪



『雪の結晶 小さな神秘の世界 新装版』ケン・リブレクト／著 矢野真千子／訳 河出書房新社 2014年
雪の結晶を見たことがありますか？この本には数々の雪の結晶の写真が掲載されています。この本を見れば、きっとその美しさに見とれてしまうことでしょう。構造や観察方法なども解説されています。

雲



『雲と鉛筆』吉田篤弘／著 ちくまプリマー新書 2018年
鉛筆工場の2B部で働いている主人公。屋根裏部屋に住み、6Bから9Hの十七種類の鉛筆を使用して雲を描きます。「人生は」と語り始める人生、理容師のバリカンや十徳セールスマンのジュットクなど様々な人と接し、“あいだ(間)”というものについて考えるおはなしです。

『雲の見本帳 基礎知識と見つけ方、撮り方がわかるビジュアルガイド』村井昭夫／著 エムディエヌコーポレーション 2016年
同じ雲の形に出会うことはできません。空を眺めていて雲の写真を撮りたくなることもあることでしょう。虹についてもふれられています。3つの条件が揃っていれば虹に出会える可能性あり！この本は第1章で被写体となる雲の特徴を解説し、第2章以降で写真的撮り方を紹介しています。この本を読めば、雲の写真が撮りたくなるはず！

『雲の図鑑』岩槻秀明／著 ベスト新書 2014年
雲が発生するしくみを解説していて基礎からわかります。雲10種類の分類一覧・高さと形がひと目でわかるガイドがついています。また、雲だけでなく、3章では光と雲がおりなす世界として、雷や虹、夕焼けなども取り扱っています。それぞれの雲のページには遭遇頻度が5段階で表示されています。雲に多数の穴が開いた、“蜂の巣状雲”はすぐに形を変えてしまう為、めったにお目にかかることができない！？

星

『星の降る町 六甲山の奇跡』明川哲也／著 メディアファクトリー 2008年
舞台は1970年代の神戸・芦屋。あるハプニングが起こり、主人公の少年トルリと洋菓子屋「星の輪っか」の老人サジが、寒い夜の中一緒に外で過ごすことになり、絆を深めていきます。その夜サジはトルリに、流れ星が落ちた家には、何か得たら何かを失う出来事が起こるとい話をします。表面だけで物事を決めつけてはいけないことを改めて感じさせてくれる本でもあります。神戸弁で書かれているので、きっと親しみを感じる人も多いと思います。

『星の王子さま 新版』サン＝テグジュペリ／作 内藤濯／訳 岩波少年文庫 2000年
サハラ砂漠に不時着した飛行士が、ピュアな心の持ち主・星の王子さまと出会います。いろいろな星の住人、変わった大人たちも登場します。星の王子さまは出会った人、動物、花にそれぞれ疑問に思うことをストレートに質問します。“一番大切なものは目にみえないのだ”ということばが心に響くおはなしです。

『星ごよみ365日』星空さんぼ編集部／編 誠文堂新光社 2018年
1月1日から12月31日までそれぞれ違う星が、素敵な写真とともに説明が添えられて紹介されています。タイトルは365日となっていますが、2月29日のページもあるので、実際は366日です。自分の誕生日のページを確認するもよし、この本を手にとった日付に載っている星を見てもよし、写真を見て好きな星を探すもよし...いろいろな使い方ができる本です。

『星占いのしくみ』石井ゆかり／著 鏡リュウジ／著 平凡社新書 2009年
朝のテレビ番組や雑誌の巻末などの星占ってついつい見てしまいますよね。そもそも運勢はどのようにして決まるのか気になりますか？このしくみがわかれば、明日から一喜一憂しなくてよくなるかも！？

空



『青空の指きり』恩田皓亮／著 河出書房新社 2000年
中学2年生でこの本を書いた著者。第1章～第4章それぞれ童話・俳句・詩で構成されています。同じ目線で共感できることばがきっと見つかるはず！

雨



『雨の事典』レインドロップス編著 北斗出版 2001年
熟語・歌・小説・映画・絵など文化的な雨、暮らしに関わる雨、気象、雨水利用など、雨に関することを全てまとめられています。傘かしげ・天水琴など風流なことばも解説されています。

飛行機



『リサひこうきにのる』(絵本)アン・グットマン／ぶん
ゲオルグ・ハレンスレーベン／え 石津ちひろ／やく
ブロンズ新社 2000年
リサ好きな人は必見！このお話でも「ひゃー やっちゃった」のハプニングが発生します。でも、周りの人達に助けられて、空の素敵なサービスを満喫することができます。最後はハッピーな気持ちになれるおはなしです。

太陽と月



『トコトンやさしい太陽の本』山崎耕造／著
日刊工業新聞社 2007年
「太陽の光はどこからくるのか？」「太陽の未来は？」など太陽そのものから「地球以外で生物は生存可能か？」のように宇宙規模のものまで解説されています。また、環境面で注目されている太陽エネルギーについても述べられています。



『月学 伝説から科学へ』稲葉茂勝／著 縣秀彦／監修
今人舎 2017年
月の表面温度は、最低 - 170 で最高110 っていますか？日本の月の呼び名や、百人一首の月の歌などが紹介されています。また、中秋の名月が満月ではない理由や、三日月と月食の違いなど科学的な視点からも解説されています。

お天気



『こんなにためになる気象の話』饒村曜／監修
ナツメ社 2003年
「日本の夏はどうしてこんなに蒸し暑いのか？」
「一時・時々・のちの使い分けは？」
「降水確率がどのくらいなら傘をもっていく？」など生活している中で感じる疑問を解説しています。この本は、お天気に関する雲・雨・雪・気圧・前線・風・台風・虹・雷・異常気象・四季・世界の天気・天気予報などを網羅的に解説しています。

オーロラ



『オーロラの謎 南極・北極の比較観測』
佐藤夏雄／共著 門倉昭／共著 成山堂書店 2015年
「オーロラとは何か？」「日本でもオーロラが見えることはあるの？」など基本的な疑問から、南北両半球のオーロラ比較まで分かる本です。南北両半球の比較はかなり貴重です。地理的な制約から南極の昭和基地と北極のアイスランドのペアでしか比較可能な場所がないのです。オーロラに興味がある人は読んでほしいと思います。

新着図書紹介

『探検家の事情』

角幡唯介著 文春文庫 2019

『空白の五マイル』で開高健ノンフィクション賞、大宅荘一ノンフィクション賞を受賞した、前人未到のツアンポー峡谷を踏破した著者。勇気あふれる冒険家のイメージですが、実は恐妻家で家を買うときもぐずぐず悩んだりするへなちょこ。北極に忘れ物をして死にそうになったり、イッカクの脂を食べ過ぎて胃もたれに苦しんだりとおっちょこちょいな部分にかなり共感できます！

『へいわとせんそう』

たにかわしゅんたるう文 Noritake絵 ブロンズ新社 2019

松蔭は毎年兵庫学校図書館スタンプラリーに参加しています。参加した人には「小中学生におすすめの44冊」という冊子をプレゼントするのですが、そこにこの本の案内を入れました。難しいことは書かれていない、ただせんそうのときとへいわのときをくらべているだけの本です。このシンプルな絵をみて考えてほしい。そしてこの表紙にそっくりな人、知りませんか？

『間違いだらけの文章教室』

高橋源一郎著 朝日文庫 2019

間違っても心に響く文章がある。農村女性の遺書、ステーブ・ジョブズの講演、校長先生の短い話。巻末には学生たちが考えてみた憲法の前文が載っています。あなたの文章は実は世界でたった一人、あなたしか書けない文章。ほかの人に響くにはどうすればいいのでしょうか。

『文豪お墓まいり記』

山崎ナオコーラ著 文藝春秋 2019

文豪ストレイドッグスですっかり織田作のファンになった私は法善寺横町に夫婦善哉を食べに行き、自由軒の店で「カレー」を食べている客をじっと覗き見していました。

この本にはもちろん織田作之助も太宰も、中島敦も漱石もでできます。26人の文豪のお墓に行ったときのエッセイ集です。

『アイヌ文化で読み解く「ゴールデンカムイ」』

中川裕著 集英社新書 2019

ゴールデンカムイ！面白い漫画ですね。アイヌの文化を全く知らない人間にもわくわくさせられます。ヒンナヒンナと感謝をして食事をするアイヌの文化はなんて豊かなんだろう。自然と良好な関係を保つアイヌの文化、世界観、ことばを紹介しています。チタタブなどアイヌならではのグルメの解説も楽しく、野田サトルの描き下ろし漫画も収録しています。

『ダーウィンの「種の起源」はじめての進化論』

サヴィーナ・ラデヴァ作・絵、福岡伸一・訳 岩波書店 2019

科学者からグラフィックデザイナーに転職した著者が描いたダーウィンの【種の起源】はとても優美で易しく進化について解説してくれています。例えば人間が作り出したいろいろな犬の種類はすべて一種類のオオカミにたどり着くこと。逆に同じ環境に住む、イルカの祖先はほ乳類、サメの先祖は魚、魚竜類の先祖はは虫類とすべて違うけど、みんなよく形が似ていたり。

ぺらぺら見るだけでも楽しい科学絵本です。

『写真がかっこよくとれる30のわざ』

「わざ」をマスターしよう

自由研究や観察に使えるわざ

町調べや修学旅行に使えるわざ』

塩見徹監修 くもん出版 2018

別にインスタ映えに興味はないけど、可愛いらしい猫の写真はきちんと撮っておきたい。そんなあなたにもおすすめです。

虫の目、鳥の目、写すものの高さに、カメラを持つ時の違い。主役の配置の工夫、背景の色の明暗、写りこみの防ぎ方、マクロとズームの使い分け、どういう写真にはどういう効果がいいのか、小学生にもわかるように具体的に大きな写真例を挙げてつぶさに説明されています。

『世界史で学べ！地政学』

茂木誠著 祥伝社黄金文庫 2019

国家間の対立を地理的条件から説明する、それが地政学。隣り合った国は仲が悪い。ドイツとフランス、アメリカとメ

キシコ、そして日本と韓国。隣国同士は潜在的な敵であるという考え方には一理あります。そしてこの本によると2050年にはアメリカの覇権は終わるとか。世界を9つのブロックにわけて世界史と国際状況を解説している本書はマルツと現代社会を理解するのに便利です。日本はどうなる？

『ヒッキーヒッキーシェイク』

津原泰水著 ハヤカワ文庫 2019

学校でつまらないいじめに遭った少年、ハーフだとはじかれた少女、会社でのくだらない嫌がらせに負けたサラリーマン、正体不明の天才ハッカーの4人にチャラくてうさんくさいカウンセラーが、「不気味の谷を越えないか？人間を創ってほしい」と金になる(?)プロジェクトに誘う。引きこもっているからお互い疑心暗鬼になりながらも協力していくうちに、トラブルが発生するのだが…。引きこもりたちに対する温かい目と、成長と、それから結末の爽快さと。正直すこし泣いてしまいました。ズルいという人もいますが。

2019年2学期図書館予定

11月11日(月)~16日(土)
宗教週間チャリティブックバザー。

不要な本をお持ちくださる方は前日までにお願ひします。この期間に不要な本を1冊10円でチャリティに役立てます。

10月18日(金)午後
かぼちゃのランタンのワークショップ

12月12日(木)午後(予定)
レジンワークショップ

ふるってご参加ください。

2019年(令和元年)9月2日発行 松蔭中高図書館広報誌
はと時計215号